

1年生 工業技術基礎 水澤工務店の棟梁から学ぶ授業

棟梁とお弟子さんが来校されての授業になりました。棟梁は、社寺建築をはじめ、多くの有名建築物を手掛けられている方です。たくさんのご自分の道具を持ってきてくださり、「腰掛けあり継ぎ」を最初の墨付けから行って下さいました。生徒たちは、授業で同じものをつくっていましたが、その手際の良さ・速さ・正確さに驚きました。



↑完成した「腰掛けあり継ぎ」。
修正なしの完成に感嘆の声が
上がりました。

途中から、2班に分かれて、「墨つぼ・墨差し・差し金・のみ・のこぎりの使い方」と「のみ」の研ぎ方・かながけを学びました。



刃物を研ぐ方法を学び、お弟子さんは、この授業のために「新しいかな台」をつくって持ってこられました。



墨つぼを使用した墨打ち・のこぎりやのみの使い方を学び、棟梁は、生徒一人ひとりにアドバイスを下さいました。



大工道具の説明を丁寧に行ってくださいました。竹から「墨差し」を安全につくる台を持ってきて下さいました。生徒も一緒につくってみましたが、竹を削るだけでも棟梁と同じにはなりません。今回の授業を受けて、生徒たちは、少しでも棟梁やお弟子さんのようになりたいと、これから練習を重ね、多くのことを学びたいと思いました。

建築科講演会 宮後 浩先生

大阪から、宮後浩先生が来校されて「手描き建築パース」の講演会を行いました。

宮後浩先生は、芸術学博士、株式会社コラムデザインセンター・株式会社コラムデザインスクール代表取締役・日本パーステック協会理事長です。2011年には叙勲。

手描き建築パースの著書多数あり、本校でも授業で活用しています。



建築パースとは？と簡単な説明をされて、さっそく実際に、描いてくださいました。題材は、本校でも1～3年生まで学んでいる吉村順三先生設計の「軽井沢の山荘」外観です。



とにかく早い！下書きのペン描きから、マーカーを用いて着色。色数は、少ないのに魅力的に完成していきます。



今度は、インテリアパースを下書き。ペン入れ途中で、「人物を加えて描いてほしい」との要望に応じて、描き加えて下さいました。特別に、水彩絵の具で着色。絵の具の数も15色のみで、この美しさ！「さすがプロだ！」と拍手と声が上がります。陰と影の違いについての説明も行ってくださいました。

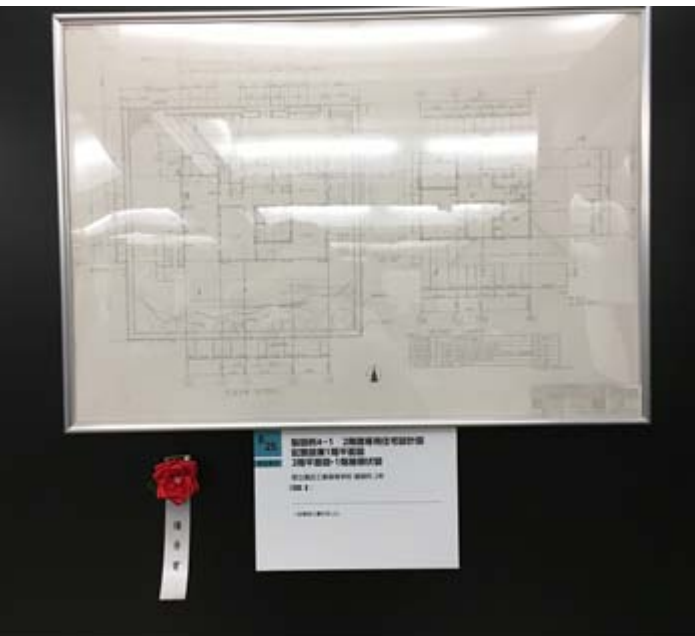
自分の考えた建築物を相手に伝えるためのプレゼンテーションに役立てていきたいと思った講演会でした。

一般社団法人東京建設業協会主催

東京都建設系高校生作品コンペティション2018入賞しました



審査員特別賞 「筆箱」



優秀賞 「2階建て専用住宅平面図兼配置図」



製図模写部門 本校生徒展示作品



工芸部門 本校生徒展示作品「ペン立て」

